

個別事例を通じた介護支援専門員に対する指導・支援の展開 事例シート（リハビリテーション）

| | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|--|--|--------|
| 担当介護支援専門員名: M | | 所属: 居宅 | | 実務経験: 2 年 | | 基礎資格: 介護福祉士 | |
| スーパービジョンに出したい理由 | | 右被殻出血で左半身麻痺が出現しています。退院後のリハビリについて提案しましたが、導入には至っていません。今後どのようなリハビリプランを提案していけば良いか助言をいただきたい。 | | | | | |
| 事例のタイトル | | リハビリに消極的な方の支援について。 | | | | | |
| 検討したい課題 | | どのようなリハビリプランを組み込んでいけば良いか教えて欲しい。 | | | | | |
| 事例対象者の情報 | | 氏名(イニシャル) Fさん | | | | 女 | 年齢 68歳 |
| 世帯状況: (2) 人家族 | | 健康状態 | | 安定 | | | |
| 生活歴・家族状況(ジェノグラム) | | 現病歴 | | 右被殻出血 開頭血腫除去術後(左半身麻痺) | | | |
|  <p>家屋状況: 戸建て住宅 段差あり、車椅子移動は 困難、住宅改修無し</p> <p>娘達は二人とも県外在住、 就労あり 時々孫を連れて来る</p> <p>生活歴: A市で高校卒業後、一般企業の事務員として就労。その後夫と結婚し二女をもうける。夫はサラリーマンで、本人は専業主婦の傍ら、時々実家の商店の手伝いをして生活していた。脳出血になる前は大病もせずに生活していた。</p> | | 既往歴 | | 高血圧症 | | | |
| | | 要介護度 | | 要介護3 障害高齢者の日常生活自立度 B2 | | | |
| | | 自己負担割合 | | 1割 認知症高齢者の日常生活自立度 I | | | |
| | | 被保険者情報 | | 医療保険 国民健康保険 年金等 国民年金(金額不明) 身体等障害手帳 脳出血による左半身麻痺 2級 | | | |
| ADL | | 食事: 自立 寝返り・起き上がり: 介助 排泄: 尿便意曖昧、おむつ使用一部介助 入浴: 全介助 更衣: 一部介助 歩行: 5m程度はつかまればなんとか可能 | | IADL | | 掃除、洗濯、整理、買い物、調理、金銭管理等: 全介助 口腔衛生: 歯磨き不十分で汚れが目立つ 皮膚の状況: おむつによる陰部のただれあり 行動・心理状況: 自発的な行動が少ない。 | |
| 利用中のサービス | | 訪問介護(週2回) 通所介護(週3回) 福祉用具貸与(車いす) | | 経済状況 | | 夫婦の年金を合わせて生活 | |
| 利用者・家族の意向及び目標 | | 本人: 寝たきりになりたくない。少しでも自分の事ができるようになって家で暮らしたい。 夫: トイレが自分でできるようになってほしい。家での生活ができるようリハビリをしてほしい。 | | | | | |
| 支援を開始した経緯等 : 令和元年10月 右被殻出血でA病院に入院し、その後B病院に転院。B病院の地域連携室から紹介されたケース | | | | | | | |
| 相談内容 : 7か月間の入院を経て自宅に退院するが、入院前と状況が変わっていることから色々相談にのってほしい。 | | | | | | | |
| 事例の概要(支援経過の要約) | | | | | | | |
| 令和元年10月: 外出しようと玄関を出たところで左片麻痺が出現し、転倒してA病院に救急搬送された。右被殻出血と診断され、同日開頭血腫除去術を実施。3週間後リハビリ目的でB病院に転院となった。 令和2年4月: B病院地域連携室から退院後の在宅支援の依頼があった為、病院を訪問し、初回面談を実施。主治医からも入院中の様子を聞き取り。(訪問看護、通リハ、訪リハを勧められる) 令和2年4月: 退院し自宅復帰となった。 | | | | | | | |